

## DMI & The Love of Christ

### DMI とキリストの愛

1. Good morning. It's so nice to be back here. It's wonderful to see some dear old - and young - friends. And it's wonderful to be sharing the Word of God with you. This morning I would like to share about Deaf Ministries International with you. DMI is where I work now, it's where MIC very generously directs a lot of its giving, and it's where God is doing some amazing work. So I'd like to share a little of this this morning.  
  
1. おはようございます。私は今朝、再びこの箕面国際教会に戻ってこられたことを、とても嬉しく思っています。親しい古き良き友人達と再会でき、また皆さんに会えて、とても嬉しく思っています。そして、このように、皆さんと一緒に神様の御言葉を分かち合えることも素晴らしいことだと感じています。今朝は、デフ・ミニストリー・インターナショナル、国際ろう者支援団体についてお話しをしたいと思います。デフ・ミニストリー・インターナショナルのことを、今から DMI と呼びます。国際ろう者支援団体 DMI は、私が現在働いているところです。また、箕面国際教会がたくさんの寄付をしてくださっている支援団体でもあります。そしてまた、DMI と言うところは、神様が素晴らしい働きをしてくださっているところでもあります。今朝は、そのことを皆さんに少しお話ししたいと思います。
2. For those who are new to the church or who might have forgotten, DMI was started by Neville and Lill Muir over 40 years ago. Sadly, he died a couple of years ago, but Neville was an Australian man who loved the gospel and who loved the deaf. He and Lill went to Korea as missionaries to the Deaf and within a few years had planted 13 churches for the Deaf.  
  
2. 今日は、初めて教会に来られた方や、以前の DMI の概要紹介を、もう覚えておられない方もいらっしゃるかもしれませんので、今日はもう一度、DMI の成り立ちについてお話しさせていただきます。DMI、国際ろう者支援団体は 40 年以上前にネヴィルさんとリル・ミュアさん夫婦によって設立されました。ネヴィルさんは、残念ながら数年前に亡くなってしまいましたが、彼は福音を愛し、ろう者を愛するオーストラリ

ア人でした。彼と妻のリルさんは、ろう者のための宣教師として韓国に行き、彼らの活動のおかげで、数年も経たないうちに、ろう者のための、13ヶ所もの教会が韓国で建てられる事になったのでした。

3. Today DMI has founded over 180 churches for the Deaf, as well as 10 schools and dozens of employment projects for the Deaf in developing countries where the Deaf are neglected by their governments, shunned by their communities and even rejected by their own families.

3. 現在、DMI は、発展途上国で生活する、政府からも見放され、地域社会から疎まれ、家族からも拒絶されているろう者のために、180 以上もの教会を世界中に設立しています。そして、ろう者のための10の学校を開設し、ろう者のための職業訓練による雇用プロジェクトを何十も立ち上げています。

4. There are many challenges that we face in our work!

4. しかしながら、私たち DMI の活動には、多くの課題があります。

5. There is danger. In DR Congo and Myanmar in particular, our staff literally put their lives on the line every time they go from village to village to preach or to teach or to break bread.

5.DMI の活動は、常に危険と背中合せなのです。発展途上国での活動という事で、特に、コンゴ民主共和国やミャンマーのような国では、DMI のスタッフは、村から村へと、指導や説教をしたり食事の配膳に行くたびに、文字通り、命がけで活動しているのです。

6. There are natural disasters. Every year fields somewhere in the world are damaged by typhoons, floods or earthquakes.

6. また、自然災害も問題です。毎年、台風や洪水、地震などで、世界中のどこかの田畑が被害を受けてしまいます。

7. There are pandemics.

7. そしてもちろん、コロナウイルスによるパンデミックという問題もありました。

8. But despite this, there have also been some wonderful developments.

8. しかし、そのような問題の中でも、DMI にとって素晴らしい事もありました。

9. One example is our school in Beni, Congo.

9. その一例が、コンゴのベニという地域にある私たちの学校です。

10. It's going really well. This year we've started building a secondary school for the students to go to.

10.この学校は、とても順調に運営されています。今年は、初等科を終了した生徒が通う中学校の建設にも着手しました。

11. But last year with the pandemic the Deaf couldn't work and they were literally starving. So we ran a campaign and raised over \$100,000 to feed them and many hundreds of deaf families across many fields. This was a great help and literally saved many lives. But it wasn't sustainable.

11.しかし昨年は、パンデミックによってろう者たちが仕事を失い、食物を調達することさえままならず、多くのろう者たちは飢餓状態に陥ったのです。そこで私たち DMI は特別救済活動を行い、10 万ドル以上の寄附金を集め、ろう者たちと、その家族を養うことができたのです。その当時は、このように、特別活動によって多くの命を救うことができました。しかし、いくら私たちが助けても、そのような助けは一時的なものにしか過ぎず、ずっと続けていける支援ではありませんでした。

12. So we bought land for the students, staff and graduates to farm.

12.そこで、我々 DMI は、学生であるろう者や、その学校で働く職員、ろう学校の卒業生が農業をするための土地を購入することにしました。

13. They worked hard to prepare it and plant and grow crops.

13.ろう者の学生や学校関係者は、畑で作物を植えて育てるために準備し、懸命に畑仕事に励みました。

14. And we harvested a bounty of crops which meant that we were able to provide a lunch program so that every student could receive at least one decent meal a day.

14.その結果、すべての生徒が、1 日に少なくとも 1 回はまともな食事が取れるようなランチプログラムを提供できるようになったのです。

15. The mums came in to cook the meals over the fire pits

15.生徒のお母さんたちがやってきて、焚き火台で食事を作っている様子です。

16. And the kids finally got full tummies. But there was a problem. We often have hiccoughs as we go. It can feel like 2 steps forward, 1 step back a lot of the time. This was the problem:

16.やっと子供たちは、お腹がいっぱいになりました。しかし、常に、このように何かしら問題が起こります。2 歩進んで 1 歩下がる、というようなことがよくあるのです。このように、私たち DMI は、常に課題や問題に直面しているのです。

17. Congo is tropical so it every second day it pours!

17. コンゴという国は熱帯なので、2 日おきに雨が降ります。

18. So they asked us to build a kitchen for them so they could cook - and eat - meals every day. So we ran another campaign and we built them a kitchen.

18. そこで、コンゴの学校の人々は、キッチンを作ってほしいと私たち DMI に頼んできました。そうすれば暑い気候の中でも、毎日料理をして安全なものが食べられるようになるということです。そこで、私たちはまた別の特別救済活動を実施し、彼らにキッチンを提供することができました。

19. And the kids got full tummies again. But there was another problem. Another hiccough so it felt like 2 steps forward 1 step back again.

19. そして、子どもたちは再び、十分な食事を取ることができるようになりました。しかし、もうひとつ問題がありました。まさに、2 歩進んで 1 歩下がるような感じで、問題が次々に起こります。

20. Thieves broke in and stole 100kgs of beans which we had just harvested for the lunches.

20. 泥棒が入り、ランチの為に収穫したばかりの豆が 100kg 盗まれたのです。

21. So they asked us to build them a concrete storage shed. So we ran another campaign and we built them a concrete storage shed.

21. そこで次に、コンクリート製の物置を造ってほしいと、彼らは頼んできました。そして、また救済活動キャンペーンを行い、募金を集め、そのお金でコンクリートの丈夫な物置を作ることができました。

22. And with that, the crops really began to grow. Look at the harvests here!

22. そうして、やっと作物は豊作になり始めました。見てください、この収穫物を。

23. So all the kids were able to fill there tummies with one good meal a day.

23. これでやっと、学校の子どもたちは、1 日に 1 回、おいしい食事でおなかを満たすことができるようになったのです。

24. There are some important numbers behind the pictures I'd like to show you. It cost us US\$1,820 p/month to run the lunch program (about \$1 a day per student). For the first 9 months. From the 10th month, the harvests began to come in and we only needed to provide 75% of what we had been paying. In the next 3 months, we only paid 50%, then 25% and from January this year, the program is completely self-sustainable. So this program educates kids in agriculture, employed our graduates, sustains our lunch program and also brings a profit into the community.

24. この写真の背景には、重要な数字が隠されています。ランチプログラムの運営には、月々1,820ドル、すなわち、生徒1人あたり1日約1ドルの費用がかかります。それは最初の9ヶ月間にかかった費用で、10ヶ月目からは収穫があったので、例年に比べて75%の費用で済むようになったことがわかります。10ヶ月目以降の3カ月は50%、さらに25%と費用が減額されていき、今年1月からは寄付に依存しない、完全に自立したランチプログラムとなることができましたのです。お分かりのように、このようなプロジェクトは、食糧や食費を維持すると言うだけでなく、子どもたちの農業教育、卒業生への雇用、そして地域社会への利益還元をも、もたらしているのです。

25. It's been so successful that we ran the same program in Malawi.

25. コンゴでの成功体験を活かして、マラウイでも同じランチプログラムを実施しました。

26. Look at the results!

26. そして、その結果です。見てください。

27. It's not only farming. We've developed sewing workshops for Deaf women

27. 農業だけではなく。ろう者の女性のための、縫製ワークショップも始めました。

28. Rice fields

28. 田んぼの様子です。

29. Rice mills, not only for our fields but for the neighbouring farmers.

29. 精米所です。私たちの田んぼだけでなく、近隣の農家の方達にも利用してもらっています。

30. We've got piggeries in a number of fields. All these help the Deaf in developing countries receive a good education, meaningful employment and a sense of value in a world that would otherwise treat them as liabilities, as stupid or as cursed. But DMI provides so much more than this.

30. いくつかの田んぼには、豚舎が併設されています。このような企画やプログラムは全て、発展途上国のろう者が、良い教育を受けることができ、やりがいのある仕事につくことができるようになる為のものです。このような支援なくしては、ともすれば、ろう者たちはこの社会で、経済的な負債を負ってしまったり、愚か者扱いをされたり、疎まれる存在として扱われてしまう事がよくあります。また、私たち DMI はこれ以外にも、もっと多くのことを提供しています。

31. Our real priority, our real joy and blessing is taking the Gospel of Jesus to the Deaf. And just to emphasise this priority, remember we have 10 schools, dozens of employment projects, but we have 180 churches for the Deaf serving thousands of Deaf people every week.

31. そうです。私たち DMI の最優先事項は、ろう者たちにイエスの福音を伝え、真の喜びと祝福を伝えることです。皆さん、この優先事項を貫くために DMI は、10 の学校と何十もの雇用プロジェクトを展開し、180 の教会を通して毎週何千人ものろう者に奉仕していることを忘れないでください。

32. A lot of that involves preaching the Gospel in sign to people who have never heard it before.

32. 私たち DMI の多くの活動は、今まで福音を聞いたことのないろう者達に、手話を用いて、教えや福音を伝える事が中心となっています。

33. It involves baptising new believers. Many dozens just last year.

33. もちろん、新しく信者になった人々に洗礼を施すことも、私たち DMI の活動に含まれます。昨年だけで数十人のろう者達が洗礼を受けてくれました。

34. It involves training up new believers through discipleship courses and Bible studies. This can be hard for many Deaf because many of them have been neglected since birth and few even know who their father is. So part of this ministry involves teaching the Deaf about the love of their Heavenly Father, and when they get it,

and believe it and receive it, they no longer have what we call 'the orphan mind', they have the mind of a person who is loved by their Father.

34. また DMI の活動は、弟子訓練コースや聖書研究を通して、新しく信者になった人々を訓練することも含まれます。しかし、弟子訓練はろう者達にとって簡単なことではありません。なぜなら、ろう者達の多くは、生まれたときから親に育児放棄されたり、自分たちの父親が誰であるかさえない事もあります。けれども、彼らが教  
えを理解し、信じ、受け取るようになれば、もはや彼らは、親のいない『孤児の心』を持つのではなく、父に愛されている『人の心』を持つようになるのです。

35. Given this passion to share the gospel with the Deaf, let me share with you our big vision for the coming years. We plan to build seminaries for the Deaf on 3 continents: In Uganda to serve all of Africa, in Norway to serve Europe and the Middle East, and in the Philippines to serve all of Asia. By establishing these Bible schools we will be training the Deaf to take the gospel to the Deaf all over the world. It's a very exciting vision. Actually we've already been doing this for almost 20 years in Uganda. Our Bible school in Uganda needs to be moved and re-established but the work has been going on their with some wonderful results.

35. DMI には、ろう者と福音を分かち合いたいという情熱があります。そこで今朝は、将来数年間に渡る、私たちの大きなビジョン、すなわち DMI の壮大な計画をお話しさせていただきます。その計画とは、ろう者のための神学校を世界の 3 つの大陸に建設するということです。ウガンダの学校はアフリカ全域、ノルウェーの学校はヨーロッパと中東地域、そしてフィリピンの学校はアジア全域を対象にして、3 つの大陸で活動して行こうという計画です。これらの地域に聖書学校を設立することで、もっと多くのろう者に弟子訓練を施すことができ、世界中のろう者たちに福音を伝えることができるようになります。これはとても壮大で楽しみな計画です。実は、私たちはすでにウガンダで 20 年近くこの活動を続けています。ウガンダの聖書学校は、現在、どこかに移転し建て直す必要がありますが、その活動は続いており、素晴らしい成果を上げています。

36. But it's not about projects and programs. It's about people. Let me tell you about Ben. Ben was a healthy young boy. He and his siblings were orphans being raised by their eldest sister and living in poverty. Then at the age of 15, Ben caught meningitis and this caused him to go deaf. With this, his friends all deserted him, he wasn't welcome at school, and even most of his own siblings rejected him. He just stayed home. His life was effectively over. And these reactions to the deaf are

common in developing countries.

Long story short, Ben was introduced to a deaf school (not one of ours) and this changed his life. He finally felt accepted. One day, one of DMI's deaf pastors came to the school and preached the gospel. Ben wasn't really interested so hid at the back where he couldn't be seen. Ben could hide from the pastor but he couldn't hide from God. Eventually, as the pastor came and shared the Word at the school, Ben opened his heart to the message and received Jesus into his life. He started going to church where he served by washing the staff's clothes and cleaning the building. He had no ambitions. He was content with this. But God had bigger plans for Ben.

One day, a prophetess came to the church around the time that Ben was finishing school, and told him that he was to become a preacher to the Deaf. He was not to look for any other work because God had singled him out to preach to the Deaf. Ben, a quiet, unassuming guy, was horrified and immediately began to look for other work. Well, you can run from a prophet but you can't run from God. Long story story, not so short, Ben started going to our Bible school in Uganda. It was a three year course, but before he even graduated, the pastor began to send Ben out to preach at schools and churches. Ben wasn't sure if he was up to it. But he went anyway, and to his amazement, hundreds and hundreds of people responded and gave their lives to Christ.

In time, he would meet Neville and Neville saw how God was working in his life and sent him as a missionary to Tanzania with his new bride Veronica, also an evangelist. Together, they have founded two churches for the Deaf and five fellowships in schools. Those congregations serve hundreds, and over the years thousands of Deaf have heard the gospel with multitudes coming to faith, through their ministry. Ben is one of the greatest evangelists in Africa. This is why we want to develop Bible schools for the Deaf!

36.       しかし、DMI の活動はもちろん、プロジェクトやプログラムについてだけではありません。DMI はろう者の人々の心にも寄り添います。今から、ベンという少年のことをお話ししましょう。ベンは健康な少年でした。彼と彼の兄弟は孤児で、長女である姉に育てられ、貧困の中で暮らしていました。ところが 15 歳のとき、ベンは髄膜炎にかかり、それが原因で耳が聞こえなくなってしまったのです。そのため、友達からも見放され、学校でも歓迎されず、自分の兄弟からも拒絶されるようになってしまいました。ベンは家に閉じこもるようになりました。彼はまるで人生が終わったかのように感じてしまいました。しかし、このように、聴覚障害者を無視するというような周りの人々の反応は、発展途上国ではよくあることなのでした。



少し長い話になりますが、当時ベンは、DMI ではない他のろう学校を紹介され、このことがベンの人生を変えたのです。学校に通うようになってようやく、ベン是人々に受け入れられたと感ずることができました。ある日、DMI のろう者牧師が彼の学校にやってきて、福音を伝えました。ベンは当時はキリスト教に対してあまり興味がなかったので、見えないように後ろの方に隠れまていました。しかし、ベンは牧師から隠れることはできても、神様から隠れることはできなかったのです。やがて、牧師が学校にやってきて御言葉を伝えるうちに、ベンは心を開き、イエス様を自分の人生に迎え入れることになりました。彼は教会に通い始め、そこでスタッフの服を洗ったり、建物を掃除したりして奉仕しました。彼には特に野望もなく、そのような奉仕をするだけで十分満足でした。しかし、神はベンのために、もっと大きな計画を持っておられたのです。

ある日、ベンが学校を卒業した頃、一人の預言者が教会にやってきて、「あなたは、ろう者の伝道者になりなさい」と告げました。またその預言者は、次のようにも言いました。

「神様はあなたをろう者への伝道者として選ばれたのだから、他の仕事は探さないで」と、ベンに告げたのです。その予言を聞いた寡黙で控えめなベンは、恐ろしくなり、すぐに逆の行動をとって他の仕事を探し始めようとしてしました。しかしベンは、預言者から逃げることはできても、神から逃げることはできませんでした。その結果、ベンはウガンダにある私たちの聖書学校に通うようになったのです。それは3年間のコースでしたが、ベンの卒業の時、牧師は、これから説教者として学校や教会で活躍する事になるベンを送り出してくれました。その時まだベンは、自分に説教などできるのかどうか、確信が持てずにいました。しかし、彼はとにかくやってみることにしました。すると驚いたことに、ベンの説教に何百人もの人々が応え、キリストに人生を捧げたのでした。

やがて、ベンはネビルと出会うことになります。ネビルは、神がベンの人生にどのように働いているかを知り、同じく伝道者であるベンの花嫁ペロニカとともに、彼をタンザニアに宣教師として送り出しました。彼らは共にタンザニアで、ろう者のために2つの教会を作り、ろう者の学校においても、5つのフェローシップグループを設立することができました。これらの教会では何百人ものろう者が奉仕し、何千人ものろう者が福音を聞き、ベン達の働きによって多くの人が信仰を持つようになりました。ベンはアフリカで最も偉大な伝道者の一人です。ベンが顕著な例ですが、このような理由から、私たち DMI はろう者のための聖書学校をもっと設立して行きたいと考えています。

37. Ben is certainly not the only one whose life has been dramatically changed by God through DMI's work. I've had the pleasure of meeting and interviewing Little Neville who was a street kid, Alphonsine who lost most of her family in the genocide in Rwanda, Claire who does an amazing job ministering to deaf Muslim women (some of whom are deaf blind), Dennis who was a healthy boy until he died at the age of

12, came back to life deaf, crippled and with cerebral palsy to become the director of our school in Lira, Uganda, Deih who is Deaf and slowly going blind as well, Peter whose great dream is to work in a hotel and own a hotel run exclusively by the Deaf, Faith who's had to overcome trauma not because of her deafness but because of having blue eyes in a country where everyone else's are brown, Sylvia who was horribly abused by her stepmother for many years until she (Sylvia) ran away from home, and Mary Ann who was a victim of abuse too until taken in by our school and church community.

37.DMI の活動を通して、神によって人生が劇的に変えられた人は、確かにベンだけではありません。ストリートチルドレンだったリトル・ネビル、因みにリトルネヴィルとはニックネームです。ルワンダの大虐殺で家族を失ったアルフォンシン、耳の聞こえないイスラムの女性達、中には盲目でろう者の人もいます。そのイスラムの、ろうの女性達のために素晴らしい支援をしているクレア、それまで健康だったのに 12 歳で突然死したデニス、ろう者で脳性まひの状態で生き返りました。ウガンダのリラ校の校長になったデイフ、耳が不自由である上に徐々に盲目になっていくデイ、そして、ホテルで働き、ろう者専用のホテルを経営するのが大きな夢というピーター、耳が聞こえないからという理由ではなく、他の人の目は茶色いのに、自分だけが青い目をしているが故にトラウマを克服しなければならなかったフェイス、継母から逃げて家出するまで何年もひどい虐待を受けていたシルヴィア、そして私たちの学校や教会のコミュニティに引き取られるまで同じく虐待の被害者であったメアリー・アン。

38. The more I interviewed, the more I found the most incredible stories of lives changed from night to day, from being lost to being found, from being in despair to having a wonderful hope. These are not the unusual stories, these are the common stories. It's very exciting to see God change so many people's lives so dramatically.

39. ろう者の彼らにインタビューすればするほど、人生が夜から昼に変わっていくように逆転し、迷いから救い出され、絶望の淵から素晴らしい希望を得るという、信じられないような物語を垣間見ることができます。これらは決して珍しい話ではなく、よくある話なのです。神様がこれほどまでに、多くの人々の人生を劇的に変えるのを見るのは、とてもエキサイティングなことです。

39. But there are thousands more. Many thousands upon thousands of deaf who we haven't reached yet. And that's what we're working to do. To reach the Deaf with the transforming gospel of Jesus. And that leads me to a big question:

40. しかし、さらに他にも何千人ものろう者がいます。そうです。私たち DMI がまだ出会っていない何千何万もの聴覚障害者がいるのです。そのために私たち DMI は働いています。ろう者にイエスの福音を伝え 彼らの人生を変えることが、私たちの使命なのです。しかし、その使命は私を大きな疑問へと導きます。

40. How can you help? Well, the good news is, you're already helping. MIC gives ¥30,000 yen every month and that goes a long way in our ministry. We really can't do what we're doing without your help. So a very big thank you for that. I'm not here today to make an appeal to you. I'm here to share what God is doing through our ministry.

40. その疑問とは、「では、まだ巡り合っていない何千人ものろう者達を助けるには、どうすればいいのでしょうか？」という疑問です。しかし、良い知らせは、MIC の皆さんがすでに私達を助けてくれているということです。MIC は毎月 3 万円を DMI に寄付してくれていますが、この寄付金は私たちの働きに大きく貢献しています。私たちは、皆さんの助けなしには、今までにお話ししたような活動をすることはできません。本当に感謝します。私は今日、皆さんにお願いをするためにここにいるのではありません。DMI のミニストリーを通して、いかに神様が私たちに働きかけてくださっているのかを分かち合うためにここにいるのです。

41. But for individuals or families who want to know, there are three ways that you can help: prayer, finance and service.

Prayer is not a token thing. It's the foundation of our ministry. There are prayer sign up sheets at the back. If you'd like to be part of our worldwide prayer team, please add your name to the list and every week we'll mail you prayer points.

Finance enables us to provide what is needed. You can sponsor a child (or pastor or church), you can give a one-off donation or you can give a monthly donation. It's all put to good use. Ask me later how it is that we don't waste a cent.

Service. If you'd like to be a part of DMI's work either here or overseas, talk to me after the service about how you can do that.

41. しかし、もっと DMI のことを知りたい人のために、あなたが DMI を支援できる方法を 3 つお教えします。それは、祈り、献金、奉仕です。

祈りは形だけのものではありません。祈りは私たちのミニストリーの基本です。祈りのサインアップシートはこの用紙の裏側にあります。もしあなたが、世界中の人々が

集まる祈りのチームの一員になりたいと思ったら、そのリストにあなたの名前を書き加えてください。

次に献金についてです。ろう者たちに必要なものは皆さんにいただいた寄付金で提供してもらっています。皆さんの寄付で、主には子どもたち、または牧師や教会をスポンサーしてもらったり、特別献金をしてもらったり、毎月、決まった額の支援をしてもらったりすることができます。すべての寄付金は有効に使われます。DMI がどのように、1 円も無駄にせず寄付金を活用しているのか興味のある方は、後ほど私に聞きにきてください。

最後に奉仕についてですが、DMI の活動に参加したい方は、礼拝の後、どのような奉仕活動ができるのか私に相談しにきてください。

42. But let me finish with this key question: What motivates us? Why do we pray? Why do we give money? Why do we serve? Why do we minister at all? What is the motivation?

42. しかし、最後に、次のような大切な質問をさせてください。皆さん、「私たちの動機は何でしょうか？なぜ、私たちは祈るのでしょうか？なぜ、私たちはお金を捧げるのでしょうか？なぜ、私たちは奉仕をするのでしょうか？その動機は何でしょうか？」

43. Is it guilt? Is it a sense of Christian duty? Is it to give meaning to our own lives? Is it to leave a legacy - so when we die, people can say, 'He did his bit!'?

43. 罪悪感からでしょうか？キリスト教の義務感からでしょうか？自分の人生に意味を持たせるためなのでしょうか？自分の過去に栄光を残すためでしょうか？そうすれば私たちが死んだとき、人々に「彼は自分の役割を立派に果たした！」と言われてもらえるからでしょうか。

44. Let me answer that by telling you one more quick testimony. This is Hugh. The big guy standing in the middle in the white shirt. Hugh is severely mentally and physically disabled. As the teachers kindly told me when I got there, "Hugh can't learn". Hugh never graduated from first grade. The teachers let him go up in grade just to be kind but he is still at first grade level.

44. その質問の答えをくれるもう 1 つの証言があります。彼の名前はヒューです。真ん中に立っている白いシャツを着た大柄な男性です。ヒューは、重度の知的・身体障害者です。私は、彼の学校を訪問し、ヒューの授業中の様子を見学したことがあります。どんなに先生たちが熱心に彼に教えても、知的障害のため、ヒューは「学ぶことができない」のです。そういう訳で、ヒューは、小学校 1 年生のクラスか

らいつまで経っても卒業することができません。それでも先生たちは、親切に学年を上げてくれましたが、実際の彼の学力は、まだ1年生のレベルのままです。

45. Hugh told me that he is currently in grade 7. This is remarkable given that the school only goes up to grade 6! He also told me he has two goals for the future. The first is to become the school principal. The second is to become kind and loving like Neville. I can say with certainty that Hugh will never become the principal of our school or any other school. But I can also say with certainty that Hugh has learned to love. I have seen him be kind and caring to the other students and protective of the younger ones. He is becoming like Neville. Hugh might not be able to learn much but he has learned to love and that's a big deal. (It's also more than a lot of very smart people get to learn.) But Hugh is never going to achieve much. He's never going to be a productive member of society. He's never going to be a Ben or a Claire or a Sylvia who are doing amazing things in the world. Hugh gives us a very, very poor return on our money. He is, frankly, never going to amount to much. So why do we bother? Why don't we just leave him in a village somewhere and invest our money on people who can give us a better return on our limited resources and be more productive? Why bother with Hugh?

45. ヒューは私に、現在は7年生だと言いました。しかし、この学校は6年生までしかないので、それを聞いて少し驚きました。また、将来の目標は2つあると、ヒューは言いました。ひとつの目標は、校長先生になること。もうひとつは、ネビルのように優しく、愛情深い人間になること。私は、ヒューがこの学校の校長になれるという確信はないものの、ヒューが『愛情』を学んだということは、確信を持って言えるでしょう。私は、彼が他の生徒に親切にしたり、思いやりを持って年下の生徒を守っているのを見たことがあります。ヒューはネビルのように優しく、愛情深い人になりつつあるのです。ヒューは多くを学ぶことはできないかもしれませんが、愛することを学びました。ヒューは決して多くを達成することはできないし、彼は決して社会の役に立つようなこともありません。彼は、世界で立派な仕事をしているベンやクレアやシルビアのようになることも決してないでしょう。ヒューのような人は、私たちDMIがいくら寄付をしても、寄付のし甲斐があるような学生ではありません。率直に言って、それほど重要な人ではないように見えるのに、なぜ私たちDMIは彼のような人を気にするのでしょうか？なぜ、ヒューのような人をどこかの村に残して、DMIの限られた資金源を使って、より良い見返りを与えてくれる人を支援しないのでしょうか？なぜ私たちDMIは、より生産的な人にお金を投資しないのでしょうか？なぜそんなにヒューを気にするのでしょうか？

46. Because Jesus loves Hugh. Jesus loves Hugh so much He died for Hugh. And because Jesus loves Hugh, we love Hugh. What motivates us?

46. それは、イエスがヒューを愛しているからです。イエスはヒューを愛しておられ、ヒューのために死なれたからです。そして、イエスがヒューを愛しているから、私たちもヒューを愛するのです。では、何が私たち DMI を動かしているのでしょうか？何が DMI を駆り立てているのでしょうか？

47. Paul wrote, "The love of Christ compels us, because we are convinced that [Jesus died to save us]." We are so convinced of the death and resurrection of Jesus, we are so convinced of the gospel message, we are so convinced of the love of God for us, that we are compelled to love others in the same way. That's what motivates us.

47. パウロは、『14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになります。』と書いています。私たちは、イエスの死と復活を信じ、福音のメッセージを信じ、私たちに対する神の愛を信じるので、私たちも同じように、他の人を愛さざるを得なくなるのです。それらが私たち DMI の原動力なのです。

48. Can I encourage and challenge you today to examine your faith, to examine your works and to examine your motivations.

48. 今日は皆さんにお聞きしたいと思います。自分の信仰をもう一度見直してみてください。自分の行いを見直し、自分の動機を見直してください。私は今朝ここで、あなたの信仰、行い、動機をもう一度考えてみてくださいと、皆さんに励まし、問いたいと思います。

Pray